

図書館だより

秋田大学附属図書館

附属図書館ホームページ

<http://www.lib.akita-u.ac.jp/>

医学部分館ホームページ

<http://libra.med.akita-u.ac.jp/>



菅江眞澄の道を辿って10

立岩を眺んで。岩館海岸に現存する。眞澄の図版では、海中に屹立しているが、現在は波打ちぎわまで下がっている。海蝕で背が低くなったのか、やや太った感じがする。

「ふりあふき見る立岩とていや高く、越の国の根矢の鉾楯に似るあり。」

(雪の道奥 雪の出羽路)

秋田大学名誉教授 山本穆彦氏：画

目次

図書の館は物置(Shed)か、それともサンクチュアリ(Sanctuary：神聖空間)か	2～3
ことばの遊び / 本学教官等著作寄贈図書	4
アルバイト学生のひとりごと / トピックス	5
研修報告(大学図書館職員長期研修 / GIFと画像伝送システム)	6～7
大学・図書館からの情報発信 / 理工学データベース(EV2)の新機能について	8～9
医学部分館コーナー(PubMed 新機能 ほか)	10～11
掲示板 / 編集後記	12

図書館の館は物置(Shed)か、 それともサンクチュアリ(Sanctuary：神聖空間)か



秋田大学附属図書館長補佐
佐藤 博

神社仏閣は襟を正す場である。チューインガムをかじり、ヘッドフォンでズンジャカ、ズンジャカの音楽に浸りながら、神前の祝詞や座禅などあるはずはないし、そのようにして教会、神殿で祈りをささげることも許されはしない。それは万国共通の常識と言える。「自己」、「自我」を見つめ、心・精神の昇華を探るとき、我々が示す自然な姿勢は、静かな瞑想であり、宗教では祈りとなるのであろう。

サンクチュアリと呼ばれる神聖な場では帽子を脱ぐこと、私語を慎み、道を同じくする仲間を思いやり、その求道の邪魔をしないことなどは最低のマナーである。マナーやルールを守れぬ人間は、甚だしく「礼」を欠くか、許し難い罪を犯すことになりかねない。

さて、図書館である。

1989年、私は、カナダのQueen's大学を訪れたとき、その図書館に驚いた。まるで教会と見まがうばかりの、石造りの建物である。中に足を踏み入れると、おのずと気が引き締まる。それは、鳥居をくぐり、社殿に通じる石畳を踏むときの緊張感に似る、と言えば理解し得よう。ステンドグラスの窓を通して差し込む、神々しいまでのブルーの光の束が、学習室を満たしている。その荘厳かつ真摯な、学問の世界のパノラマのような光景に圧倒されてしまった。そこでは、言うまでもなく、心ゆくまで書物に没頭し、思考をめぐらす至福の時を過ごすことができたのである。

その時、私には、図書館がなぜ教会の建設のように膨大な財と労力を費やし、これほど立派に築かれるのかがごく自然に得心できた。その

建物は単に本を収納する物置・倉庫などとは掛け離れた次元に位置し、キャンパスにあって学問の神を讃える神殿であり、その修行の場として利用され、崇められもする大学のシンボルでもあったのである。

次に、小さな物置のような図書館の話である。

それは、樹齢が七、八十年かと思われる大きな松ノ木の立ち並ぶ一角に、本当に目立たないように建っていた。建物はずい分と古く、夏には窓を開け放しておく、松の木陰のせいで涼しかったが、冬になると、木製の窓枠の透き間から、雪まじりの冷たい風が容赦なく吹き込んできた。それでも、私は、歩くとガタピシ鳴り響く黒ずんだ床板の、四、五十人も入れれば息が詰まりそうになる、ちっぽけな学習室が好きで、いつも最後尾の窓際の席を自分の席と勝手に決めていた。

その書庫が不思議な空間であった。

中は薄暗い。特に雨の日が暗かった。そして、本特有の、あの少しかび臭い空気が充満していた。スイッチを探して、オンにすると、所どころの本棚の上に取り付けられた小さな蛍光灯が、眠たげに、それも今でも消えそうに次から次へと灯りをともし、沢山の本の背を照らした。その空間は悲しいほど細やかなものであったが、それでも当時の私にとっては「未知なるもの」に溢れ、知の拠り所であり、頼りとする所であった。

確かに、図書館に資金をつぎ込んでも、直接には、個々の教官の教育実績、研究業績が上がることはないに違いない。しかし、図書館は大学のインフラ（基盤施設）というよりは、学問

のシンボルの塔であり，社会が神社仏閣，教会・神殿を不可欠なものとするように，大学にとって，なくてはならないサンクチュアリである^と考える。「俗念を離れ，未知を知とする行為に没頭する空間」，「心が洗われる空間」が一つぐらいあっても，邪魔になることはないし，混迷する若者にとって，今，一番必要なもののよ

うに思われる。それは，決して，勉強すると頭が痛くなるような一部の学生に媚びることではない。

(さとう ひろし
工学資源学部 地球資源学科教授)

写真の説明

1. 1989年冬のQueen's大学図書館
カナダの歴史は新しい。しかし，Queen's大学は1842年に創立された。それは明治維新に先立つこと26年前の天保13年に当たる。当時，日本では水野忠邦が悪名高い天保の改革を推し進めていた。建物には，その頃のカナダ人の学問に対する思いが感じられる。
2. 写真（秋田大学鉱山学部六十年史，財界評論新社，1973より転載）は，新築後間もない大正初期の秋田鉱山専門学校^{（現秋田大学）}の講堂である。この建物は，1972年に現在の図書館が完成するまで，中を仕切るなど種々の工夫が施され，図書館としても利用された。

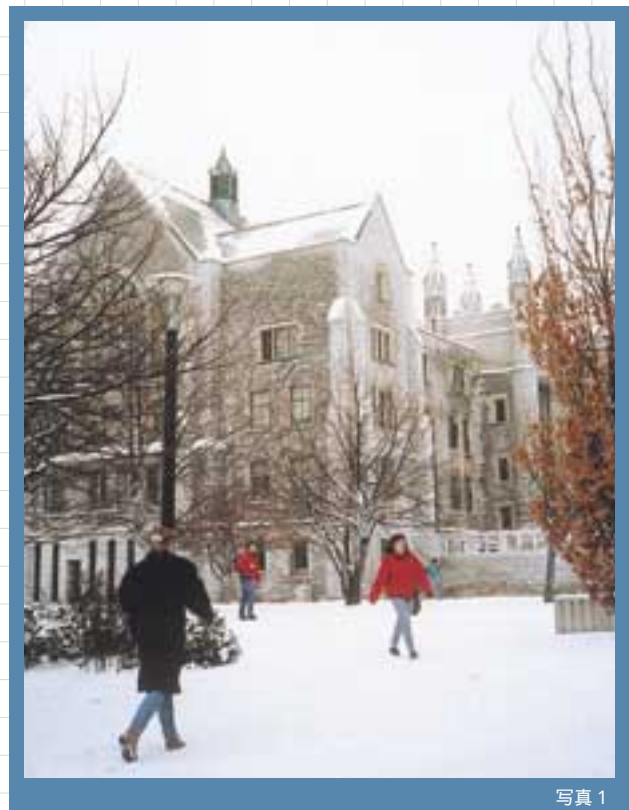


写真 1



写真 2

ことばの遊び



秋田大学附属図書館長補佐
佐藤 稔

古来、日本語の表現世界には“遊び”というものがあつた。高校の古典で誰しもが触れたのは、『伊勢物語』東下りの章段の〈折句〉であろう。「かきつばた」の五文字を句の上に据えて「唐衣着つつなれにし 妻しあれば はるばる来ぬる 旅をしぞおもふ」という歌にしたものである。

少し高等な段階になると、ある語句を各句の上下に詠み込んだ〈沓冠〉の歌となる。『栄華物語』(花の宴)には「合はせ薫き物少し」を「あふ坂も はては行き来の せきも居ず たずねてとひこ きなばかへさじ」に忍び込ませた例が見られる。頓阿の『続草庵集』には、兼好から「米賜へ 銭も欲し」のメッセージが「よも涼し ねざめの かりほ た枕も ま袖もあきに へだてなきかぜ」の歌として届けられ、これに対し、頓阿からの返事が「よるも憂し ねたく我がせこ はては こず なほざりにだに しばし訪ひませ」で示されている。この二首では先の例と違って沓の部分 は下から順次繰り上がって行く手法になっている(メッセージの解説省略。各自解読されたし)。いい大人がこのような遊びに打ち込んでいたのである。

藤原定家の異父兄の家集『隆信集』にも数々の

言語遊戯が見られるが、上から読んでも下から読んでも同じというかいぶん〈回文〉歌を一つだけ紹介しておこう。「ながきよの のもはるかにて そまくらく まそでにかるは もののよきかな」。よい初夢を見るために枕の下に敷く歌を思わせる作りである。本居宣長は若年の砌、この回文を創り易くしようと主要語句(「はるけし 茂る葉」など)のリストを作成し実作に備えていた(筑摩版『本居宣長全集』による)。ことほどさように“知的”な営みであつたらしい。

実利を重んじる今の世では、こうした遊びが何の役に立つのか、子供でもない者が何故こんなことに精力を傾けるのか、不審に思われるかもしれない。しかし、頭脳を柔軟に働かすためには“遊び”のステージは不可欠である。

多忙で齷齪せざるを得ない現代にこそ心に余裕をもった遊びの時間は必要であろう。「人は遊ぶときにのみ真に人間となる」(シラー)ということばもある。図書館には我々のこの渴きを癒してくれる多くのものがある。

(さとう みのる

教育文化学部 日本・アジア文化講座教授)

本学教官等著作寄贈図書

(平成15年3月～平成15年12月受入れ)

本学教官が著し、寄贈したものです。ありがとうございます。

高樋さち子	分担執筆	「生命倫理事典」	太陽出版	2002
幸野稔 [ほか]	編	「サンシャイン英和辞典」	開隆堂出版	2003
秋田大学医学部附属病院	編	「知って安心秋田の病気あれこれ」	秋田魁新報社	2003
今村義孝	著	「秋田のキリシタン」	秋田古筆学研究所	2003
熊田亮介	著	「古代国家と東北」	吉川弘文館	2003
大嶋勝司	著	「性の有り様」	無明舎出版	2002
佐藤稔・日高水穂 [ほか]	執筆	「CD-ROM版秋田のことば」	無明舎出版	2003

図書館では本学教官の著作物(単独著書、共著書、編著書、訳書、分担執筆、学位論文)を、積極的に収集し、利用に供しています。出版の折には御寄贈くださいますようお願いいたします。

アルバイト学生のひとりごと

諏訪 法子

私たち学生アルバイトは、平日17:00~20:00、土・日・祝日9:00~17:00の間、附属図書館で利用サービスの仕事をさせていただいています。仕事内容は、主にカウンター業務、図書の排架、書架整理、開館・閉館作業などです。私がこのアルバイトを始めた当初、職員の“お手伝い”という感覚を持っていましたが、いざやってみると、職員ばかりに頼れず、自分たちでその時々への対応を考えなければならないことが多々あります。そのときは、経験のある先輩と協力しつつ対応します。図書の排架、書架整理などは一見すると単純な作業に思えますが、利用者が資料を見つけやすいようにするために重要な仕事です。又、カウンター業務となると、図書館での仕事が、公務でありながら“サービス業”でもあることを実感させられます。

仕事をしていると、いろいろな発見があります。どこの書架の使用頻度が多いとか、大学内で何かイベントがあるときには、図書館も来館者が増えたり、館内のトイレの場所、また大学構内の案内

をすることも多くなったり。金曜日の夜はなぜか学生の利用者が少なくなるなど…。

また、1年前にアルバイトを始めた私ですが、それまで、それなりにこの図書館を利用してきつつも、意外に活用できていなかったことに気づきました。大学生では4年次になると、卒業研究のために、図書館利用は自然と増えることになるとは思いますが、その前の1~3年次のときに、図書館を大いに利用してみることをお勧めします。閲覧室や自習室で勉強するだけでなく。例えば書庫には、各大学の紀要や、雑誌(学術)論文がたくさんあります。図書館のHPも一度じっくり見てみて下さい。特に、蔵書検索の「OPAC」の利用は、図書館内の資料を探すのに欠かせません。またパソコンを使った学術の情報検索も、学生にはぜひ早めに使いこなせるようにして欲しいと思います。

(すわ のりこ 教育文化学部 4年)

トピックス TOPICS

1. 平成15年度後期情報リテラシー授業開講

昨年10月1日~11月12日の毎週水曜日 5-6 時限、“ネットワーク時代の情報リテラシーB”としてインターネット時代における情報収集・活用能力取得を目的とする授業が図書館員の支援で行われました。(写真参照)



2. 文書・レポート作成用パソコンが増設されました

本館2FのOPACコーナー横に新しく文書やレポートなどを作成するためのパソコンとプリンターが備え付けられました。従来のものと併せてご利用ください。

研修報告

平成15年度大学図書館職員長期研修に参加して

鈴木 久美子

毎年夏に文部科学省と筑波大学主催で行われる「長研」に参加する機会を得た。今年はひどい冷夏で、7月の東京とは思えない肌寒さの中、会場内は静かに熱い集中の日々となった。法人化を目前にしての開催となったこともあいまって、他大学の現状や取り組みに触れ、またいろいろな立場や業種の方々からの講義を受ける中で、今現在大学図書館が抱えるあらゆる課題と向き合った。それらはどれも、いつも心の片隅にありながら目の前のルーティンワークに埋没し、しかもそれを掘り起こす勇気を持たないまま、追われながら日常業務をこなすだけの自分にさまざまなヒントを与えてくれるものであった。

大学図書館の管理・運営、法人化に向けた取り組み、電子化の現状と推進、電子ジャーナルの問題点と対抗策、リテラシー教育など学習教育支援、多様化する情報サービスへの対応、著作権、流通etc…。37もの多岐にわたる講義と7ヶ所の施設見学、「法人化後の大学図書館の在り方」「学術情報の収集・発信の企画と運用」をテーマとした討議、そして全国40機関から集まった受講生との交流で得たものを、この紙面に表す術を私は持たない。

ひとつだけ言えることは、大学図書館を取り巻く環境は今後さらに厳しさを増し、求められる役割もまた増す、ということである。

紙媒体の資料は、劣化とともに年々スペースの著しい狭隘化を招き、すでにのっぴきならない状況にある。ただでさえ苦しい財政事情の昨今、増改築など物理的な解決策は望むべくもない。手探りのまま、時代の趨勢でほぼ無条件に取り込んできた電子化資料は、徐々にその功罪が明らかになってきた。

代表格の電子ジャーナルは、ここにきて重大な欠陥を露呈し世界中の学術図書館を混乱させてい

る。特定の商業出版社による寡占は、数年来の外国雑誌の高騰に拍車をかけるばかりか、高額を投じて購読契約したものが翌年には読めなくなって、無邪気に便利がっていられない現実を思い知る。

対抗措置として、国立大学間でコンソーシアムを組み団体で契約交渉する、アーカイブのためのミラーサーバー設置の動き、既存の雑誌に頼らず自らが引用件数の高い文献の発信者・出版者となるべく活動を始めた SPARC JAPAN などの模索が続いている。

また、ネット上に日々流れ出す玉石混淆の情報を、学術資料として体系的に、そして信頼性の高いものにするため、誰がどこでどのようにフィルタリングするかも重要な問題となってきた。

前述のとおり、高騰する外国の出版物などで圧迫された資料費に旧態依然とした組織機構では、実際現場の裁量は皆無に等しく、大手私大図書館で見せつけられた自治のスタイルは夢のまた夢。法人化によって今後さらに激しくなる予算獲得競争。その条件下で、教育研究機関である大学の「知の拠点」となるべき図書館としての使命を十分に果たすためには、上記のような学術情報の収集や中継地点としての機能だけでなく、学内外に向け、紀要など学内発行資料や所蔵する貴重図書の公開や電子化をはじめ、「秋田大学」の附属図書館だからこそできる独自性と付加価値のある情報発信を展開していく必要がある。

今や、文献の検索も所蔵の確認も学外への依頼もすべて、研究室からのパソコン操作ひとつで、わざわざ図書館に足を運ぶことなく行えるようになった。だが一方で、「場」としての図書館の役割もまた、変容しながらどんどん大きくなっている。

図書館だけが持つ独特の静粛が、学生にとって依然として大切な自学自習の空間であることは言うに及ばず、学外者の利用制限緩和、公開講座の

開催、ボランティアの受け入れなど、地域社会への貢献の場としての要素も求められるようになってきた。

当館でも年末年始や長期休業期間以外は、入試など特別なケースを除き土・日・祝日も毎日開館していることを含め、できる限り対応しているところである。

ここまでいくつかの事例を紹介させてもらったが、今回取り上げたのは研修で話題となった案件のほんの一部に過ぎない。これらさまざまな難問をクリアしていくために不可欠なものは、教官の協力や学内関連部局との連携、そしてなにより職員ひとりひとりのスキルアップにほかならない。アウトソーシングの必要性が叫ばれて久しい。業務の合理化を図りながらサービスの質を向上させる。言うは易く行うは...である。しかしながら、それ以外に道はないのもまた現実なのだ。

長期研修に参加し、この厳しい変革の時代に最先端で奮闘する講師の方々や、それぞれの職場でがんばる仲間と直に接することで、山積する深刻な課題を痛感し、同時に実に多くのことを学ばせてもらった。直接世話をしてくださった筑波大学

の方々はじめ関係各位、そして不在中の業務をフォローしてくれた職場のスタッフには、不勉強な自分に本当に貴重な機会を与えていただき、心から感謝している。

ニーズも形態も多様なこの情報化時代に、もはや図書館は往年の書物を管理蓄積していく機能だけでは「図書館」たりえない。この先に広がる大学図書館の将来は、暗澹たる闇夜か茨の道か。それでもやはり私たちは明るい希望を持って、変化を恐れずに最善を尽くすのみである。

そのためにも職員はそれぞれ、より高度な専門性を身に付ける必要があり、併せて法人化によって今後さらに求められる政治的手腕や企画運営と管理能力。もちろん一朝一夕になしうるものではないが、望まれる人材に一歩でも近づくべく研鑽に努めたい。

現状がどんなに厳しいものであっても、図書館を必要としてくれる利用者の皆さんがいる限り、今回この研修で提示されたたくさんのヒントを足がかりに、明確なビジョンを持って自分たちが理想とする図書館の構築を目指していきたい。

(すずき くみこ 利用サービス係)

GIFと画像伝送システムの活用研修に参加して

川和田 美恵子

平成15年12月11日、東京大学総合図書館で行われた「Global ILL Framework(GIF)と画像伝送システムの活用」についての研修会を受講してきました。

GIFとは、ネットワーク環境において資源共有の理念を地球規模で実現しようという仕組みです。大学図書館ではグローバル化する利用者(研究者・学生)の情報要求に対応するために国内外の大学図書館等と相互協力していく必要があります。それと同時に画像伝送システムで文献を紙(コピー)ではなく、データとして利用者に送信することで、限りある資源を守ります。

この講座を受講し、図書館をとりまくネットワーク環境についての知識不足を痛感しました。現在、NACSIS-ILLシステムで国内の大学図書館等と相互利用をしています。近い将来、当館も国内と同様に国外のGIF参加館と相互利用が可能になるでしょう。今後もGIFの動向に注目し、対応していく必要があると思われます。

なお詳細は下記サイトをご覧ください。

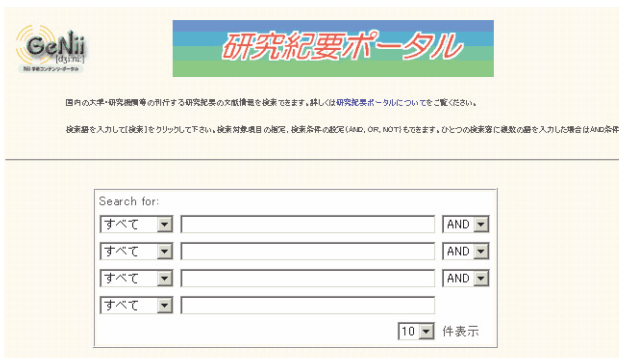
<http://www.libra.titech.ac.jp/GIF/>

(かわわだ みえこ 利用サービス係)

大学・図書館からの情報発信

国内の大学・研究機関等から生み出される学術情報の円滑な流通を図り、研究成果を広く内外に発信する目的で行われている国立情報学研究所（NII：National Institute of Informatics）の支援事業により、下記の成果が公開され利用できます。また図書館でも独自に所蔵する貴重資料の電子化（データベース化、画像化）公開への取り組みが進められています。 [情報システム係]

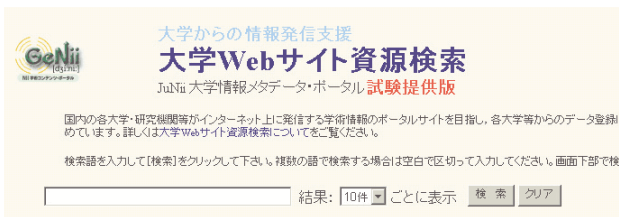
1 研究紀要公開



秋田大学関係の研究紀要類の目次情報（論題、著者など）がデータベース化され各種キーワードで検索できます。そして一部のタイトルについては本文も閲覧可能になっています。詳しくは下記図書館HPの「研究紀要ポータル」ページをご覧ください。

http://www.lib.akita-u.ac.jp/mokuji2.htm
 また全国大学の紀要情報は下記URLをご覧ください。
 http://kiyo.nii.ac.jp/（左図参照）

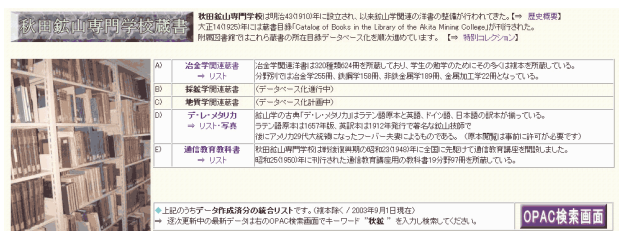
2 メタデータ・データベース共同構築



本学内からインターネット上に発信されている各種の学術情報 - 研究成果（論文等）、研究資源（実験データ等）、研究者情報、広報資料、図書館情報など- について体系化したデータ（メタデータ）を作成することにより、データベースとして各種キーワードで検索ができます。

下記（JuNii：大学WEBサイト資源検索）URLでご利用ください。
 http://ju.nii.ac.jp/（左図参照）

3 秋田鉱山専門学校蔵書データベース



1910（明治43）年設立の秋田鉱山専門学校は戦前、わが国最大の鉱業に関する専門学校として発展してきました。その間、洋書の収集整備が行われてきましたがその中には鉱山学の古典「デ・レ・メタリカ」のラテン語原本や各国語翻訳版など貴重な資料が所蔵されています。このたびこれらの蔵書情報をデータベース化し利用に供することになり、冶金学から順次採鉱学、地質学関連図書のデータベース化が進められています。（下記URLをご覧ください）

http://www.lib.akita-u.ac.jp/kozan.htm（左図参照）

理工学系文献データベース Engineering Village 2 (EV2) の 本学 OPAC と電子ジャーナル (フルテキスト) へのリンク機能について

【利用法】

- ・図書館 HP で EV2 の検索を行い、検索結果の各文献の詳細情報を表示させる。
最下部の “ Full-text and Local Holdings Links ” を参照する。(参照)
“ Link to OPAC ” で、この文献収録誌の本学所蔵状況が表示され、(参照)
“ Full-text ” アイコンが表示されれば電子ジャーナルで全文が読めます。(参照)

The limits of training Japanese listeners to identify English /r/ and /l/: Eight case studies — (論文タイトル)

Takagi, Naoyuki (Tokyo Univ. of Mercantile Marine) **Source: Journal of the Acoustical Society of America, v111, n 6, 2002, p 2887-2896**

ISSN: 0001-4966 CODEN: JASMAN **【EV2-検索結果-文献情報】** (収録誌情報)

Publisher: American Institute of Physics Inc.

Abstract: Eight monolingual Japanese listeners were trained to identify English /r/ and /l/ by using 560 training tokens produce
nant cluster, and 160 inter... arning were measured usin
by additional ten talkers. L **抄 録 (Abstract)** nsitivity to the nontraining to
rms of initial and final sen... and response time. Even after training, however, more... remained some tokens for e
below chance, suggesting that truly nativelike identification of /r/ and /l/ may never be achieved by adult Japanese

Database: Compendex
⇒ **Full-text and Local Holdings Links** ①

Link to OPAC
Full-text

【OPAC検索】

所在	巻号次	年次	請求記号	
工・機械	99-113,114(1-5)+	1996-2003		受入状況
本館	29(1,5-7),32-39,40 (1-3),42(6),43- 46,51-104	1957-1998		受入状況
医学部分館	47-50	1970-1971		受入状況

【書誌情報】 書誌詳細情報

[書名・責任表示] **The Journal of the Acoustical Society of America**

The Journal of the Acoustical Society of America -- June 2002 -- Volume 111, Issue 6, pp. 2887-2896

【電子ジャーナル】 ③

Full Text: [HTML Sectioned HTML PDF (95 kB) GZipped PS] Order

The limits of training Japanese listeners to identify English /r/ and /l/: Eight case studies

医学部分館コーナー

PubMed に所蔵データのリンク機能が追加されました

従来の文献検索の手順では、PubMed で求める文献を検索した後に、その文献が掲載されている雑誌の学内蔵書の有無については、別途 OPAC（学内所蔵検索）等で所蔵調査する必要がありました。しかし、今回のリンク機能の追加により、医学部分館で所蔵している文献にはアイコンが表示されるようになりましたので、検索結果を詳細表示するだけで所蔵の有無がわかるようになり、便利になりました。

また、電子ジャーナルアイコン（電子ジャーナルをフルテキストで利用できる論文に対して表示されるアイコン）が変わりました。使用法については以前と同様ですので併せてご利用ください。

PubMed の秋大専用入口



図1 分館HPトップページ

使用方法

1. まず、分館 HP のトップページ（図1）からPubMed（秋大専用入口）に入り、求める文献を検索してください。
2. 求めるものが検索できたら（図2）、下線が引いてある青字の部分（著者名部分）をクリックすると詳細表示画面（図3）に移ります。
3. もし、ここで緑色の所蔵データアイコン（図4）が表示されたら、その文献は医学部分館に所蔵している可能性大！そのアイコンをクリックしてみてください。（ちなみにここで図5のようなピンクの電子ジャーナルアイコンが表示されたら、それは電子ジャーナルのフルテキストが利用できるという意味です。クリックしてアクセスしてみましょう。）

クリックして詳細表示画面へ

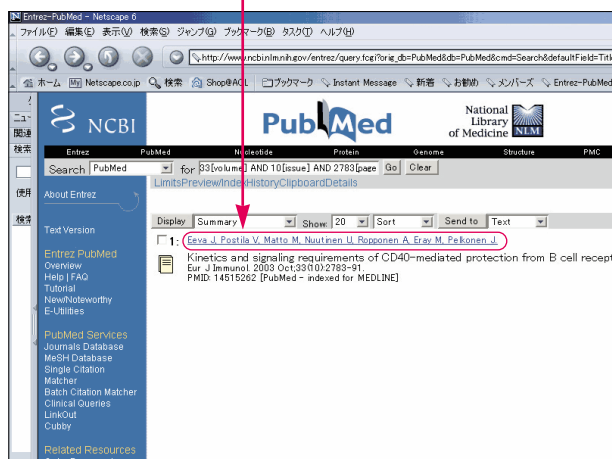


図2 簡略表示画面

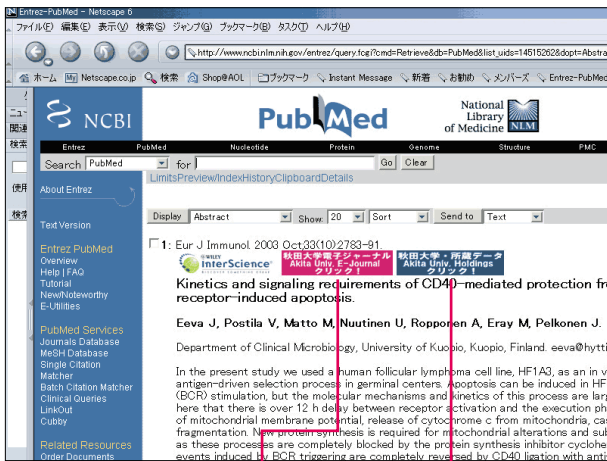


図3 詳細表示画面

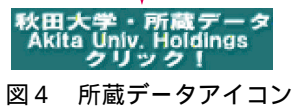


図4 所蔵データアイコン

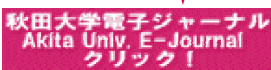


図5 電子ジャーナルアイコン

4. 緑色のアイコンをクリックした後は、分館の所蔵情報画面（図6）に移ります。画面中ほどに位置する「Library Holdings Volume (Year)」が分館の冊子体所蔵データです。ここに求める巻が表示されていれば、分館で所蔵しているということになります。実際に書架へ行って探してみてください。ただし、ここでは分館で所蔵しているものの他に、所在が医学部講座等のものも含まれて表示されます。分館で探しても見つからない場合はカウンターでお尋ねください。また、欠号は表示されません。欠号を確認するには OPAC（学内所蔵検索）で検索する必要があります。図6の下方にある「Library Catalog」をクリックすると OPAC 画面にリンクします。

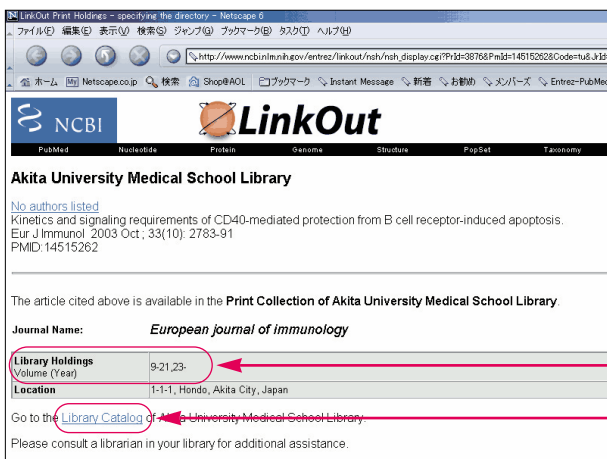


図6 分館の所蔵情報画面

PubMed に150万件のデータが追加されました

今まで PubMed では検索できなかった1965年以前に出版された古い年代のデータのうち、今回、1953-1965年分が新たに追加され、検索できるようになりました。

情報検索コーナーのプリンタを移動しました

情報検索コーナーに設置してあったプリンタを、カウンターへ移動しました。白黒プリンタがカウンターの左右に1台ずつ、カラープリンタがカウンターの下に1台です。カラープリンタで出力した場合は、職員に声をかけてください。

また、文献検索や、電子ジャーナル以外のネット上のデータ等は、FD にダウンロードしてください。FD はカウンターで貸し出しています。

掲示板

卒業生および修了生のみなさんへ

借用中の図書は忘れずに返却してください。返却期限は**2月27日(金)**です。

春休み期間中の貸出について（図書館HPの開館カレンダーも参照ください）

【本館】

本館の春休みの長期貸出は次の通りです。

2月9日(月)から返却期限**4月12日(月)**

冊数：10冊

対象：院生及び学部学生

【医学部分館】

分館の春休みの長期貸出は次の通りです。

2月13日(金)から返却期限**4月9日(金)**

冊数：2冊（通常と同じ）

対象：医学部生(保健学科生含む)

医療短大生

入学試験のためによる図書館閉館日

前期入試：2月25日(水)～26日(木) 【特別利用も停止：2月24日(火) 17:00～27日(金) 8:45】

後期入試：3月12日(金) 【特別利用も停止：3月11日(木) 17:00～15日(月) 8:45】

図書館カレンダー (2004年1月～3月)

本館

1						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29						

3						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

平日 8:45～20:00

土曜・日曜・祝日 9:00～17:00

長期休業期間 8:45～17:00

休館

分館

1						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29						

3						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

編集後記

暖かい部屋でのんびり過ごしたい季節になりました。その傍らに一冊の本を用意し、くつろぎの時間を味わうのはいかがでしょう。図書館を大いに利用し、心温まる本を見つけ出して下さい。

図書館だより 第57号

2004年1月20日発行

編集 秋田大学附属図書館出版物編集委員会

発行者 秋田大学附属図書館

〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

TEL 本館018-889-2279 分館018-884-6052

FAX 本館018-832-4917 分館018-884-6252

E-mail: 本館 riyo@lib.akita-u.ac.jp

分館 medlib@libra.med.akita-u.ac.jp